

CITY OF YOKOHAMA

日本オープンイノベーション大賞 総務大臣賞を受賞

～横浜港での洋上浮体型データセンター～

2026年2月13日
市長定例記者会見



横浜市

日本オープンイノベーション大賞とは

- ▶ イノベーションの創出を巡る国際的な競争が激化
- ▶ 研究開発等の成果を迅速に社会実装し、社会的ニーズの解決や新たな価値の創造につなげることが**大きな課題**

- ▶ 組織の壁を越えて、知識や技術、経営資源を組み合わせ新しい取組を推進する**オープンイノベーションが注目**される

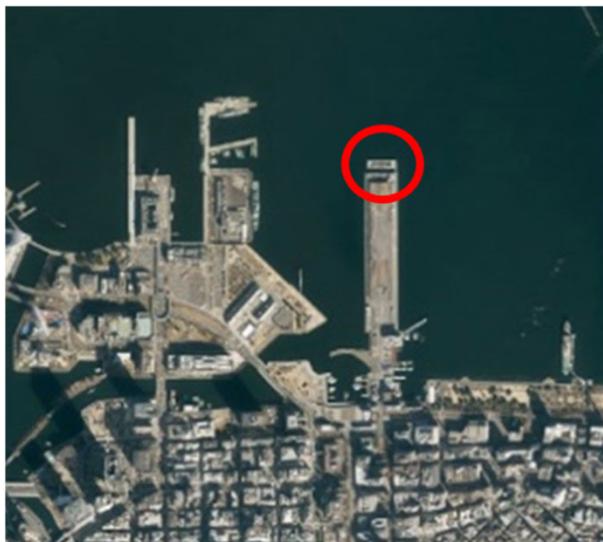
我が国のオープンイノベーションをさらに推進するため

- ▶ **内閣府**が主催。各省庁分野ごとに今後のロールモデルとして期待される**先導性や独創性の高い取組**を、オープンイノベーション大賞として表彰
- ▶ **「横浜港での洋上浮体型データセンター」が総務大臣賞**を受賞

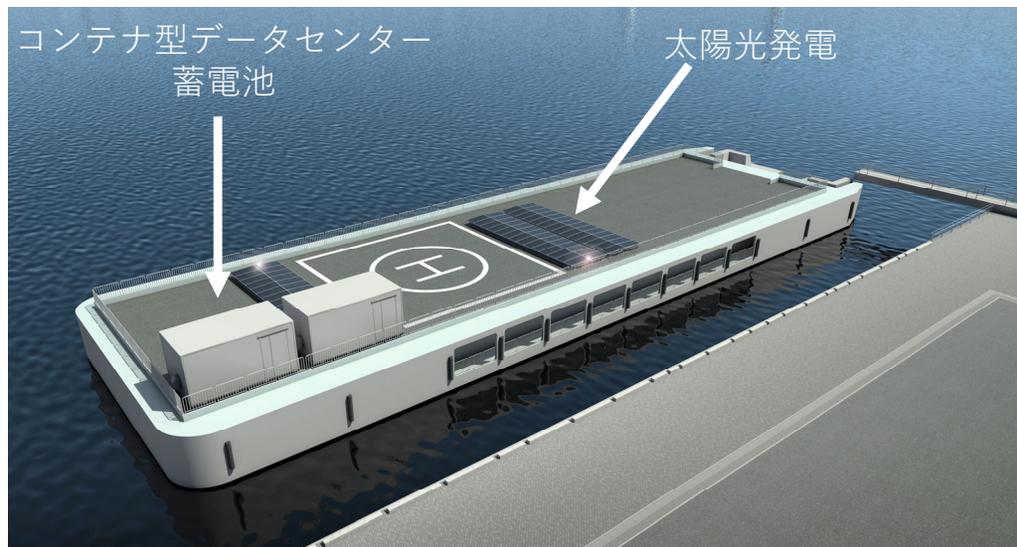
受賞した取組

デジタルインフラと地球環境の両立する洋上データセンター（3月中に実証実験開始予定）

- ▶ 公民連携で、大さん橋心頭のフロートにコンテナ型データセンター・太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギー100%で稼働



大さん橋心頭のフロートの位置



大さん橋心頭に係留中のフロート（イメージ図）

実施体制



本取組の背景

生成A I の急速な進展

データセンター需要の急増

課題

電力需要増

発電によるCO2増

立地場所の不足

建設期間の長期化

イノベーション

「陸から海へ」の前提変更

解決策

海上での
再生エネルギー利用

広大な海上
の活用

造船所の活用で
期間短縮

横浜港が日本初となった背景

カーボンニュートラルポートとして、先進的な取組の蓄積

- ・脱炭素という社会課題に対し、行政×民間が一体となり、先進的な取組を実施してきた
 - <取組事例>：洋上風力発電によるグリーン電力供給拠点の検討
 - ：次世代船舶燃料の利用促進

時代に合わせた、フレキシブルな港

- ・保有施設や空間を、社会課題解決に向けて柔軟に活用
 - <取組事例>：大さん橋ふ頭フロート防災基地の活用

洋上浮体型データセンターの将来展開

- ▶ 浮体式洋上風力発電所の近傍で、洋上データセンターを稼働させることで再エネを最大限活用可能
- ▶ 陸上で建設することに比べ、造船所で一括製造することでコストと建設期間の圧縮を期待
- ▶ 横浜の港や海洋産業を生かした、新たな産業創出



洋上浮体型グリーンデータセンター
(将来イメージ)

地域特性を生かし、公民一体で

将来に向けたイノベーションを推進